

千年の森便り No.113 2013.2.22

ちば千年の森をつくる会 事務局長 伊藤道男 sennennomori@hotmail.co.jp

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

活動の記録

2月17日(日) 晴

参加は新井通子、石松夫妻、伊藤、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本文雄、中田夫妻と5人の子供たち、福島、松田、真鍋、村野、山口の21名。厳しい寒さのなか、照度調査、伐採とシイタケホダ木の造材作業に精を出し、子供達は寒さを忘れて落葉かきを楽しみました。豊英湖には大きな魚を抱えたミサゴが舞い、久しぶりに島でシカの群れに出会いました。北斜面にはコセリバオウレンが咲き始め、近くの崖にはツララが密生していました。(真鍋)



○落葉期の相対照度調査

10時半頃からお昼にかけて、恒例の相対照度調査を行いました。測定には、照度計8台とトランシーバー9台を用い、対照となる吊り橋の上を含めて8班に別れて、トランシーバーで連絡をとりながら同時に照度測定を行いました。豊英島内の各地点での相対照度は表のとおりです。今回は落葉期なので、着葉期に比べて各地点での相対照度は高くなりました。また、巨木林調査区については、柵内30箇所の平均値が38.9%、柵外9箇所の平均値が50.3%という結果となりました。

寒い中ででの測定作業お疲れさまでした。(福島成樹)



巨木林調査区内の照度測定の様子

表 豊英島内の各地点における相対照度の変化

測定箇所	相対照度 (%)						
	2009.7.20 着葉期	2010.2.14 落葉期	2010.6.13 着葉期	2011.7.18 着葉期	2012.2.19 落葉期	2012.7.16 着葉期	2013.2.17 落葉期
2-7モミ混じり巨木林	0.8	12.1	0.6	2.8	18.9	0.9	10.6
2-13モミ混じり巨木林	8.1	49.3	8.6	3.3	47.5	2.2	39.9
3-16シイタケ柵場	2.4	23.2	1.7	1.4	23.5	2.3	19.6
4-16シイタケ柵場	1.0	16.7	1.5	1.0	24.1	4.8	15.1
千年広場中央	23.3	65.6	18.0	18.9	61.7	16.4	58.4
コナラ更新林の苗畑	27.1	74.7	31.8	19.3	58.9	14.0	61.1
ホテイチク保護柵横	3.9	7.2	4.8	1.1	18.2	-	6.8
マダケ保護柵の間	16.3	21.4	13.1	8.1	22.6	-	16.9
ガマズミ	1.3	56.7	3.0	3.7	46.1	3.9	58.8
ヤマユリ保護柵の中	9.8	69.5	5.9	3.5	49.2	5.7	50.2
コナラ更新林ヒメコマツ			64.1	41.0	86.5	42.0	75.3
岬ヒメコマツ			57.5	54.2	86.8	22.5	54.6
スハマソウ北斜面					19.1	2.1	8.8

○ホダ木伐採で樹冠にギャップを

シイタケ栽培のホダ木作成のため、2年ぶりにコナラ伐採に取り組んだ。豊英島は安定した森林であるため選木がなかなか難しいが、ギャップをつくることを意識してまとまった5株(8本)を選択しました。

苅米さんの指導のもと、当会としては久しぶりのチェーンソー作業に、久我さん、山口さん、真鍋さん、石松さんが取り組んだ。他のメンバーは、力を合わせてロープ作業、安全管理、ホダ木運搬などに汗をかきました。基本的にはロープをかけて安全確保をしながら伐採しましたが、狙いどおりに倒れることもあれば、掛かり木になりその処理に四苦八苦したこともあり、広葉樹伐採のいい経験となりました。

結果的には、約130本のホダ木が確保でき、次回3月17日(日)には、シイタケ2000駒、ヒラタケ1000駒を打ち込む予定です(伊藤)



伐木は慎重に方向決めて掛かり木防止



方向調整は力を合わせてロープ作業



玉切り90センチ×130本

○野鳥観察記

午前中は調査用紙に記入する指先が凍える寒さでしたが、野鳥の行動から春が近い事を感じました。

- ・トビが巣材運び 吊り橋を渡る途中で枝をくわえて飛んでいるトビを見ました。どこかで巣作りが始まったものと思います。残念ながら島内の古巣には手入れなどの変化がありませんでしたので、今年も繁殖は期待薄のようです。
- ・ヤマガラがさえずる スービー スービーとゆっくりしたテンポで雌を呼ぶように囀っていました。巣箱を利用して子育てしてくれるのを願っています。
- ・ミサゴの婚活? ミサゴがホテイ岬対岸の崖周辺を大きな魚を抱えて飛んでいました。枝に止まっても食べる訳では無く、獲物を掴んで飛び廻るミサゴ(2月17日 坂本文雄) 小休止の後また魚を抱えて鳴きながら飛び回っていました。恐らく雌の気を引くための行動と思います。雌がプレゼントを受け取れば婚約成立となるのですが、観察中にはその場面に至りませんでした。(坂本文雄)



獲物を掴んで飛び廻るミサゴ(2月17日 坂本文雄)

○シカに遭遇

野鳥調査のため、禁断岬方面の水際を歩いていたら、藪に潜んでいたシカの一団が飛び出して、祠山の方向へ斜面を駆け上って行きました。祠山の近くで照度調査中に目撃した久我さんや夏美ちゃんによれば4頭で角は無かったそうです。(坂本文雄)

これまで、豊英島で一度に確認されたニホンジカの頭数は3頭が最大でしたが、今回、初めて一度に4頭という頭数が確認されました。この時期、ニホンジカは雄のグループと雌+子供のグループに分かれていることが多いので、今回目撃された4頭は母親とその子供だと思われます。(福島成樹)

○子供達は落葉かき

千晴と朱音と夏実は落ち葉かきをして、腐葉土を作る準備の手伝いをしました。2年前、冬に参加したときに前年の腐葉土に沢山カブトムシの幼虫がいたので今年もいるかと期待したのですが、今年は全くいませんでした。ちょっと残念でしたが、がんばって次の腐葉土作りにとりかかりました。

今回は、5歳の千晴と朱音も一輪車を使って落ち葉を運ぶ手伝いをしました。近くで砂遊びしていただけた双子が、少しでも活動に参加できたことは、親の私たちにとっては感動でした。自分の子供たちがいろんな作業を見たり手伝ったりして喜んでいる様子を見ると、昔の里山でもこのように小さい子供たちも楽しみながら家業を手伝い、森や林のしくみを自然に覚えていったのだろうと思いました。

皆さま、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。（中田真也子）



落葉運びの子供達

○植物観察

北側急斜面にコセリバオウレンが咲き始め、ツララが密生する近くの崖にはシダ・蘚苔類に混じって、ツクシショウジョウバカマなど自生していました。北側水面近くにはスハマソウが、クロムヨウラン調査地にはフデリンドウが開花待ち、オニシバリは森のあちこちに咲いていました。（真鍋）



コセリバオウレン（2月17日 福島）



北斜面のツララ(2月17日 真鍋)

お知らせ

○3月の定例活動日：3月17日（日）9時30分 県民の森駐車場集合

ニホンジカー斉調査とシイタケ、ヒラタケの駒打ちを行います。ホダ木が多数用意できたので、大勢の参加をお待ちしています。打ち込むための木槌、金槌等をお持ちください。他の道具類は会で用意します。

また、福島県会津の森づくりグループ10名程度の来訪があります。

○ちば里山新聞34号が発刊されました。

当会会員の福島さんの「里山巡回相談」の様子が掲載されています。

カラーできれいな誌面です。<http://www.chiba-satoyama.net/>

○試験研究成果発表会（森林研究所）のご案内

県森林研究所の成果発表会が開催されます。参加は無料で、事前申し込みも不要です。当日先着220名様。

お気軽にご来場ください。

開催日時 平成25年3月1日（金）13:30～16:00

開催会場 さんぶの森文化ホール（山武市埴谷1904-5）

詳細は→[第50回 試験研究成果発表会\(林業\)](#)